

# 第1回 元気で使いやすい酒田港検討会議

## 議事概要

日時：平成28年1月26日（火） 11：00～13：00

場所：国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所 2階 会議室

1. 酒田港を取り巻く現状と課題について確認した上で、意見交換を行った。
2. 意見交換では、委員から、以下のような意見があった。
  - ・ 山形県内の荷主がもっと酒田港を利用するよう取り組みを進めていく必要がある。コンテナ貨物については、週7便となった現状を踏まえ、新たな荷主の取り込みに向け、関係者で取り組んでいくべきである。
  - ・ 将来のコンテナ貨物の更なる増加に適時適切に対応していく必要がある。冬期間などに荷役ができず、酒田港で滞船している実態もある。コンテナ船が2隻同時に荷役できるようにするなど、関係者が密接に連携し、後追いとならないよう、取り組みを進めていく必要がある。
  - ・ 農水産品輸出に向けた課題として、県産米の輸出で量を拡大するには、現有のくん蒸倉庫の活用が必要であるが、現在は、中国から認められておらず、京浜港からしか輸出できていない状況にある。早急に中国側の検査をお願いしたい。また、今後、酒田港を東北の農水産品輸出の拠点とすることも含め、取り組みを進めていく必要がある。
  - ・ クルーズ客船の誘致に向け取り組んでいく必要があるが、クルーズ客船が寄港したときのおもてなし体制を早急に整えることも必要である。他の港湾の例を参考にして進めていきたい。
  - ・ みなとオアシスの活性化については、市の観光戦略である山居倉庫周辺の整備と歩調を合わせ、山居倉庫～みなとオアシス間の連携や、みなとオアシスエリア全体をFree Wi-Fiゾーンにするなどの方策を検討し、市民が港に気軽に足を運べるようにしてい

く必要がある。

- ・ 海洋センターの展示物の陳腐化を改善するため、展示物のリニューアルに加え、企画展示コーナーの新設などに取り組んでいく必要がある。

3. 以上の意見のうち、「クルーズ船のおもてなし体制整備」および「海洋センターの展示物改善」については、早急に実行に移すべき事項として、取り組んでいくこととなった。
4. 今後、海事関係者、荷主企業、関係団体等からヒアリングを行うこととなった。
5. 次回は3月上旬に開催することとなった。